

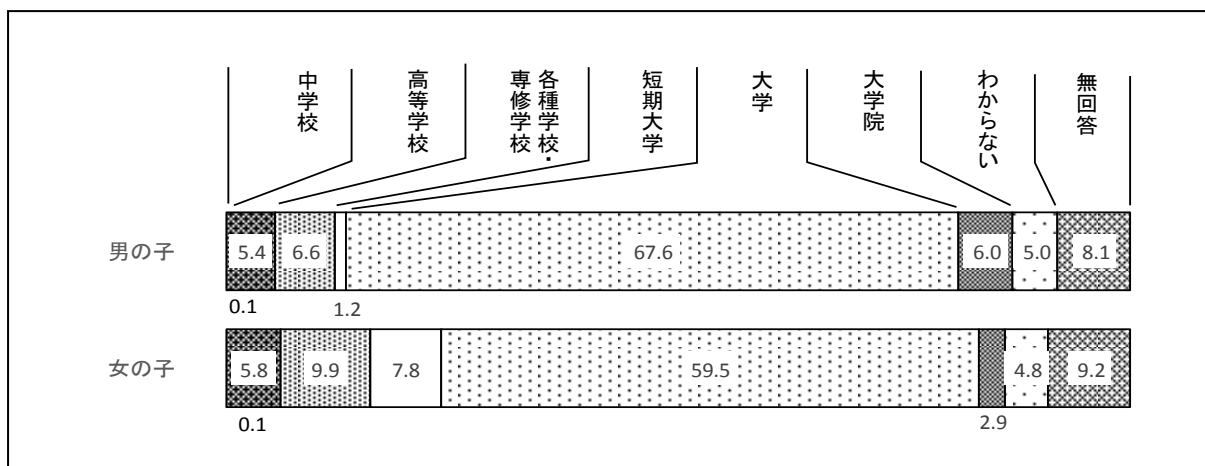
5 子どもの教育について

(1) 子どもに受けさせたい教育程度

問 2 1

あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。

◇全体



- “男の子” の場合は、「大学」が 67.6% と圧倒的に多く、以下、「各種学校・専修学校」の 6.6%、「大学院」の 6.0%、「高等学校」の 5.4%、「短期大学」の 1.2%、「中学校」の 0.1% の順となっている。
- “女の子” では、「大学」が 59.5% で最も多く、以下、「各種学校・専修学校」の 9.9%、「短期大学」の 7.8%、「高等学校」の 5.8%、「大学院」の 2.9%、「中学校」の 0.1% の順である。
- “男の子” の場合、「大学」や「大学院」の割合が“女の子”の割合を上回り、一方、“女の子”の場合は、「短期大学」や「各種学校・専修学校」の割合が、“男の子”の割合を上回る。

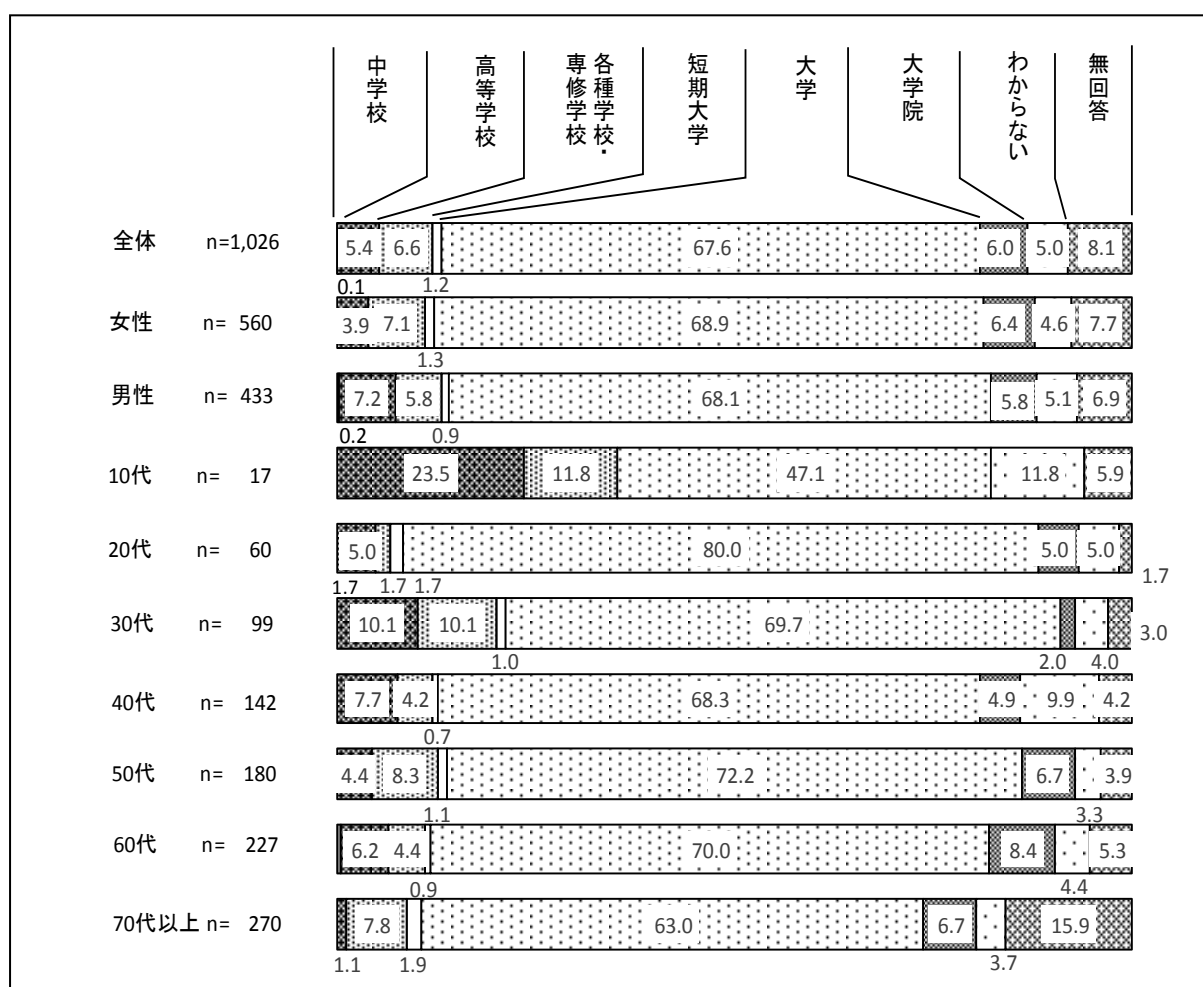
①男の子

◇性別

「大学」については、女性（68.9%）と男性（68.1%）がほぼ同じ割合である。また、「高等学校」は、男性（7.2%）が女性（3.9%）を3.3ポイント上回り、一方、「各種学校・専修学校」と「大学院」は、女性が男性をわずかに上回る。

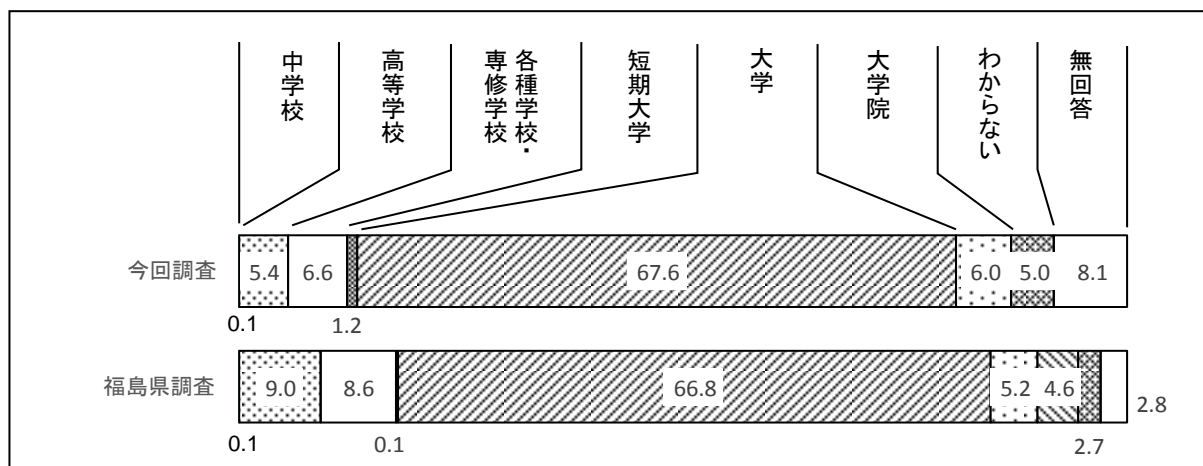
◇年齢別

「大学」は、20代（80.0%）が最も多く、次いで30代～70代以上の各年代が7割前後で続く。また、「高等学校」は、10代（23.5%）で特に多く、「各種学校・専修学校」は、10代（11.8%）と30代（10.1%）で、「大学院」は、60代（8.4%）や50代、70代以上（ともに6.7%）の中高年代にやや多い。



◆福島県調査との比較

「大学」の割合は福島県とほぼ同じである。また、「大学院」は、福島市（今回調査）が福島県をわずかに上回るが、「各種学校・専修学校」と「高等学校」では福島県の割合の方がやや多くなっている。



②女の子

◇性別

「大学」は、女性（61.1%）が男性（59.8%）を、「短期大学」は、男性（8.8%）が女性（7.0%）をそれぞれわずかに上回る。

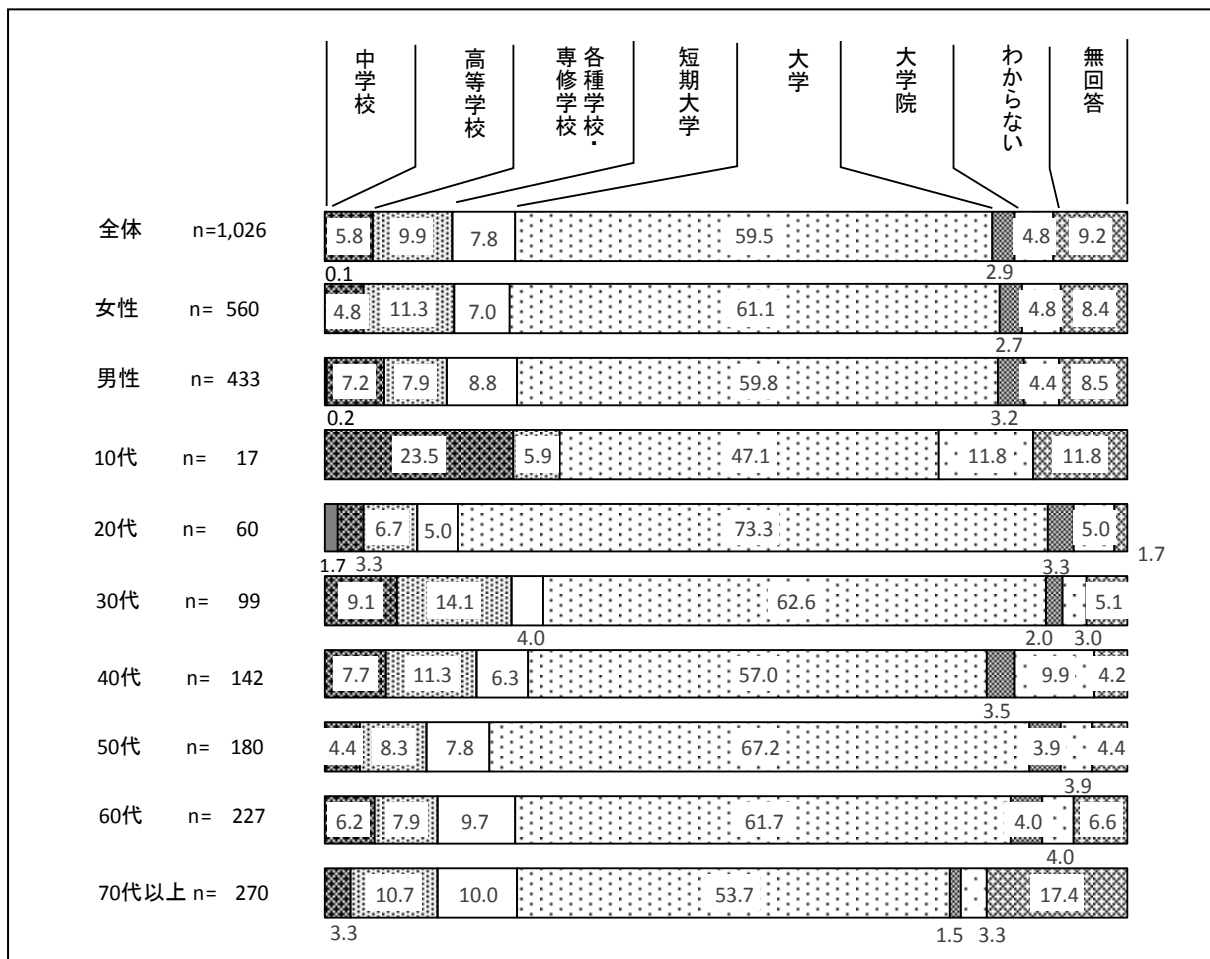
また、「各種学校・専修学校」は、女性（11.3%）が男性（7.9%）を 3.4 ポイント上回り、「高等学校」は、男性（7.2%）が女性（4.8%）を 2.4 ポイント上回る。

◇年齢別

「大学」は、20代（73.3%）をトップに、50代（67.2%）、30代（62.6%）、60代（61.7%）が上位にあり、10代（47.1%）が最も低い。

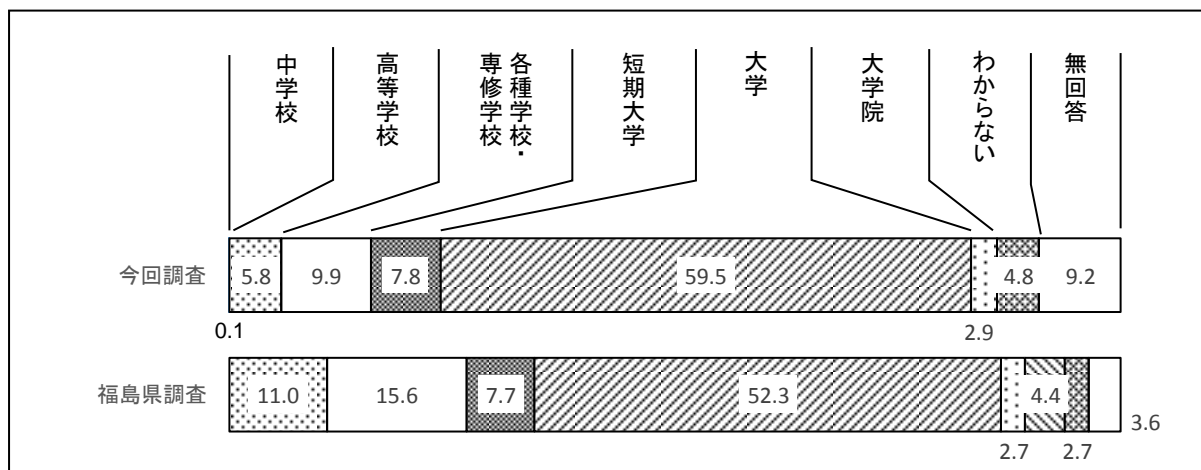
「各種学校・専修学校」は、30代（14.1%）と40代（11.3%）の中年代や70代以上（10.7%）で、「短期大学」は、60代（9.7%）、70代以上（10.0%）の高年代でそれぞれ多い。

また、「高等学校」は、10代（23.5%）で特に多くなっている。



◆福島県との比較

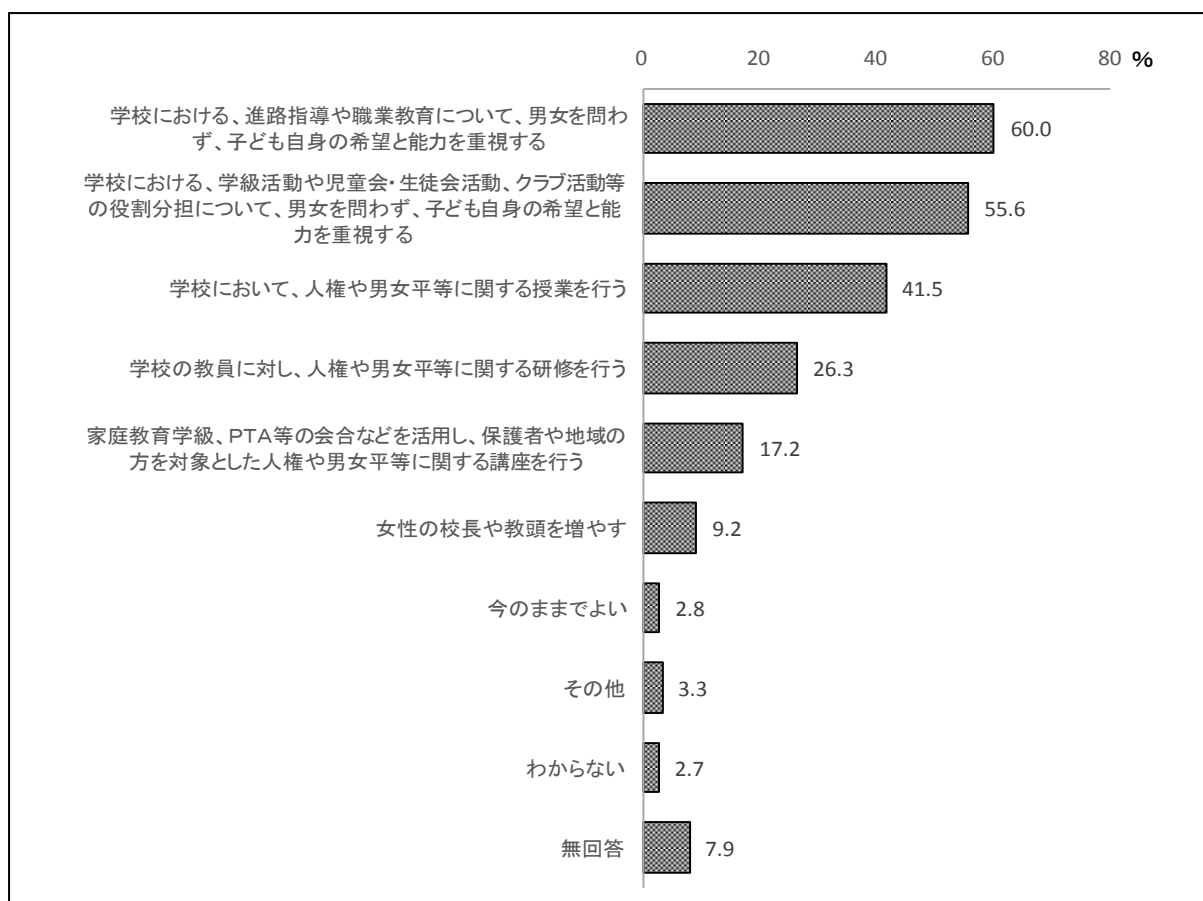
「大学」の割合は、福島市（今回調査）が福島県を7.2ポイント上回る。一方、「各種学校・専修学校」は5.7ポイント、「高等学校」は5.2ポイントそれぞれ福島県の方が多く、「短期大学」は、ほぼ同じ割合である。



(2) 子どもに対する人権や男女平等の意識の育成

問 2 2 次の世代を担う子どもたちに対して、人権や男女平等の意識を育成するために重要だと思うものはどれですか。(複数回答)

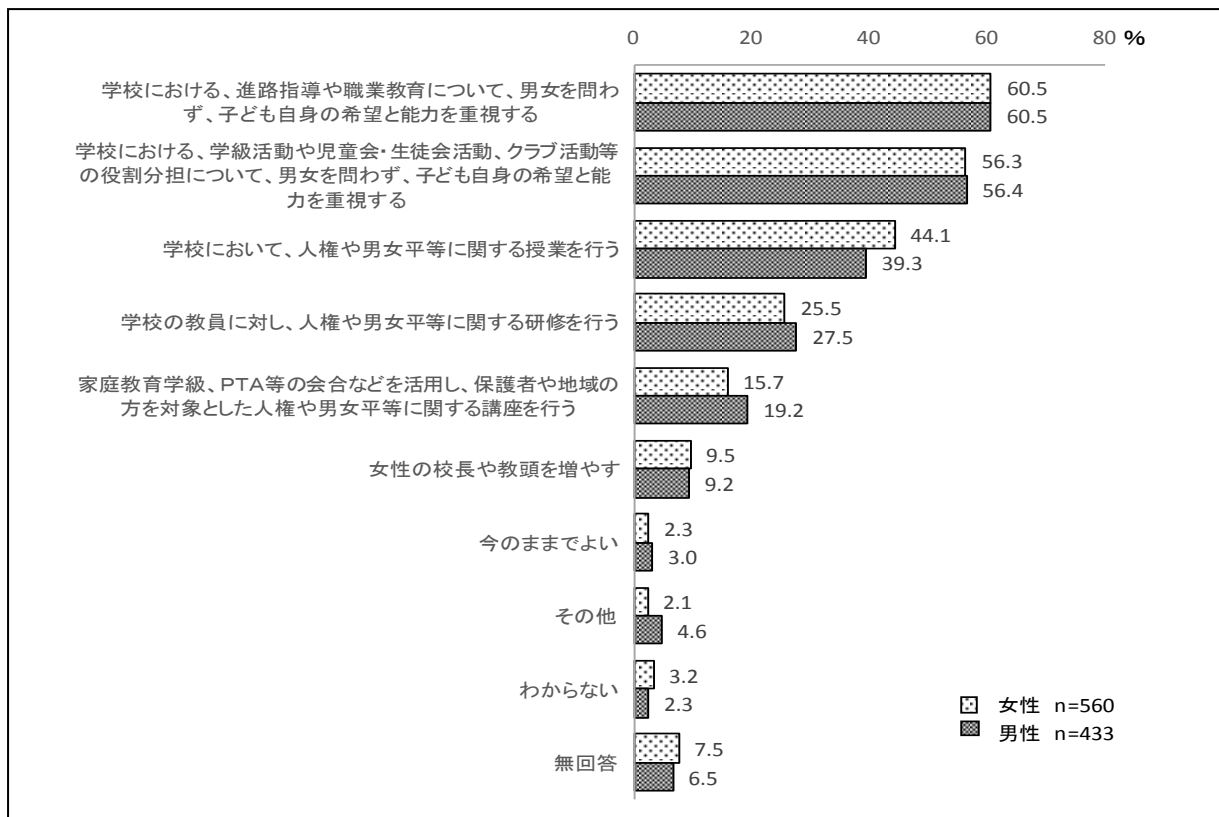
◇全体



●「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」(60.0%)が最も多く、以下、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」(55.6%)、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行なう」(41.5%)の順で、上位を占める。

◇性別

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」と「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、ともに女性と男性の割合が同じである。一方、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行なう」は、女性の割合が男性を上回る。



◇年齢別

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、20代をはじめ30代～60代で、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は、30代と40代での割合が多い。

年齢別	合計	項目										
		自身に希望と能力を重視する	学校の活動や児童会・生徒会活動等	学校における、子ども自身の希望と能力を重視する	学校において、人権や男女平等に関する授業を行う	学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う	家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他	わからない	無回答
全体	1,026	55.6	60.0	41.5	17.2	26.3	9.2	2.8	3.3	2.7	7.9	
10代	17	35.3	23.5	52.9	23.5	29.4	17.6	5.9	5.9	5.9	11.8	
20代	60	53.3	71.7	40.0	15.0	21.7	10.0	5.0	3.3		3.3	
30代	99	62.6	62.6	34.3	8.1	21.2	14.1	2.0	6.1	3.0	2.0	
40代	142	62.0	60.6	41.5	7.7	28.9	11.3	2.8	6.3	2.8	2.8	
50代	180	55.6	62.8	49.4	17.8	26.1	10.0	1.1	3.3	2.8	2.2	
60代	227	54.6	64.3	45.4	17.6	31.7	6.6	3.5	0.9	2.2	4.8	
70代以上	270	55.2	55.2	37.0	24.8	23.3	7.4	2.6	2.2	3.3	17.0	

◆前回調査との比較

「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」は前回調査とほぼ同じ割合であるが、一方、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、子ども自身の希望と能力を重視する」や「学校において、人権や男女平等に関する授業を行う」、「学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う」等の割合は前回調査より減少している。

